

書籍 BOOK

最先端の研究
成果を一冊に
長年にわたり青森県を
中心に遺跡発掘調査を行
ってきた弘前大が、所蔵
するコレクションや最先
端の研究成果を取りまと
めた一冊。全編カラーで
貴重な写真を多数収録、

地域からの考古学 弘前大学の挑戦
弘前大学人文社会科学部
北日本考古学研究センター編



説明も平易な文章を心が
けており、研究者だけで
なく一般の人でも楽しめ

「次世代と地域
をつなぐグロー
カル考古学への
挑戦」を、広く
知ってもらおう狙
いで出版した。
70円。
弘前大学出版会、29

る内容となっている。
同大の考古学研究は、
村越潔名誉教授（故人）
が教育学部に着任した1
958年が始まり。以後、
半世紀以上にわたり、学
際的かつ創造的な研究で
地域の歴史・文化にア
プローチしてきた
「腕を組む土偶」や、「帽
子をかぶった土偶」の愛
称で親しまれている中実
土偶、遮光器土偶など、
同大保管の考古資料を紹
介。北東北や北海道に所
在する遺跡の調査や、出
土したと伝えられる
田子町野面平遺跡から

書籍 BOOK

教科書と一緒に読む
海峡地域の歴史―津軽・下北・道南―
大谷伸治、小瑠史朗、篠塚明彦、瀧本壽史編著

相互関係に着目
興味深い逸話も
津軽、下北と北海道
南。「教科書と一緒に読
む」シリーズ第2弾とな
る本書では、津軽海峡を
介して深く関わり合っ
てきた地域を一体的に捉
え、強い相互関係性に着
目しながら歴史的な歩み



をまとめた。
中央政権を中心に展開
される従来の教科書で

は、この地域の歴史は見
えてきづらい。しかし美
際には、縄文時代からす
でに人々の頻繁な往来が
あり、共通の文化圏を形
成し、歴史を刻んできた。
本書は、津軽海峡地域
の「成立」「変
容・動揺」「分
断・交流」「再
編と新展開」
の4部構成。
先史・古代か
ら近現代まで
の変遷と共
80円。（佐藤実生子）

に、独自の歴史像、地域
像を描き出している。
主たる読者を教員と想
定し、各章の冒頭には「教
科書では」という項目を
設け、教科書との対応関
係を整理した。アイヌ史
に大きな比重を割いてい
るのも特徴。
下北とロシアとの関わ
りとして取り上げた慶祥
丸漂流など、興味深いエ
ピソードも多い。
弘前大学出版会、19

※この記事はデーリー東北新聞社の提供です。

[問合せ先]
弘前大学出版会
hupress@hirosaki-u.ac.jp

当該ページに限りデーリー東北新聞社が利用を許諾したものです。